

ネダニ類の発生生態と防除対策

農業研究部

1. 研究の背景

県内の白ネギ産地ではネダニ類により下葉の枯死、株の倒伏、生育遅延の被害が発生している。しかし県内でのネダニ類の発生生態は不明であり、防除技術は確立されていない。そこで、ネダニ類の発生生態及び有効な薬剤を明らかにした。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ① ネダニ類の発生は7月～8月頃から増加し、9月～10月に最も密度が高くなる(図1)。
- ② ネダニ類は健全株より萎凋病や白絹病、軟腐病罹病株を好む傾向があり、土壤病害の増加はネダニ類の密度を高める(図2)。
- ③ ダイアジノン粒剤5、ダイアジノン乳剤40、カスケード乳剤がネダニ類に対し、防除効果が高いことが判明した。ダイアジノン乳剤40およびカスケード乳剤は、他の害虫との同時防除剤として利用し、適用最上限の300L/10aを散布する(表1)。

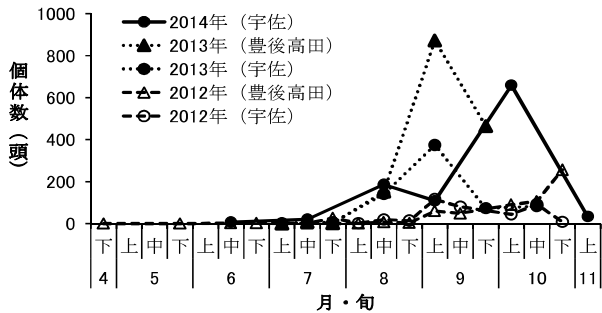
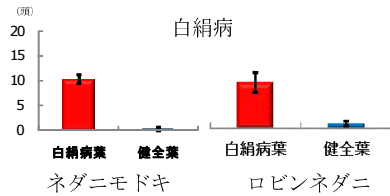
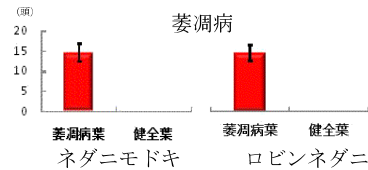
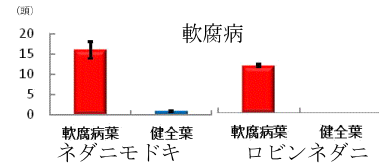


図1 ネダニ類の発生消長



※シャーレ内に罹病葉(2カ所)と健全葉(2カ所)を設置し、シャーレ中央に置いたネダニの寄生状況を調査。

図2 ネダニ類の選好性

表1 ネダニ類に配慮した土壤病害の防除体系例

処理時期	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		9月	適時			
	下	下	下～上	中～下	中～下	上	下	下					
発生時期	定植前		定植時		生育期								
対象病害虫					軟腐病								
					白絹病								
					ネダニ類								
薬剤名	ス油菜剤	ベンレート水和剤	トリフミン水和剤	5ダイアジノン粒剤	モンカット粒剤	オリゼメート粒剤	オリゼメート粒剤	カスケード乳剤	ベンレート水和剤	バリダシン液剤5	40ダイアジノン乳剤	カスケード乳剤	スターナ水和剤
対象病害虫	萎凋病	軟腐病	白絹病	ネダニ類									

- 注) 1. ネダニ類の被害が多い圃場を想定している。
 2. ネダニ類の密度抑制には土壤病害とネダニ類両方の対策が必要である。
 3. ネダニ類と上記土壤病害以外の病害虫については考慮していない。

3. 期待される効果

白ねぎに寄生するネダニ類の防除対策指導に資することができる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 病害虫チーム
 TEL: 0974-28-2078
 住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8